北岳バットレス（ﾋﾟﾗﾐｯﾄﾞﾌｪｰｽ～第四尾根）

期　　間：2023 年 9 月 22 日（金）～9 月 24 日（日）
種　　別：会山行
山　　域：北岳バットレス(ピラミッドフェース～第四尾根)

参　加　者：柴田(リーダー)、河本(記録)

夕暮れの山頂

コースタイム

9/22

7:30 横須賀 11:30 甲府市内(昼食)12:45 芦安(バス)

14:20 広河原 16:30 白根御池小屋

9/23

3:30 白根御池小屋 6:00 ピラミッドフェース取付

14:50 マッチ箱懸垂地点 17:50 北岳山頂. 20:35 白根御池小屋

9/24

7:00 白根御池小屋 9:25 広河原(タクシー)11:15 芦安

行動

１日目

移動日のこの日は特筆すべき事がない。八王子から中央道に乗り双葉へ。途中、レストラン大清に寄り腹ごしらえをした後、芦安へ。芦安から広河原はバス。広河原から御池小屋を 2 時間程の歩き御池小屋に到着。

２日目

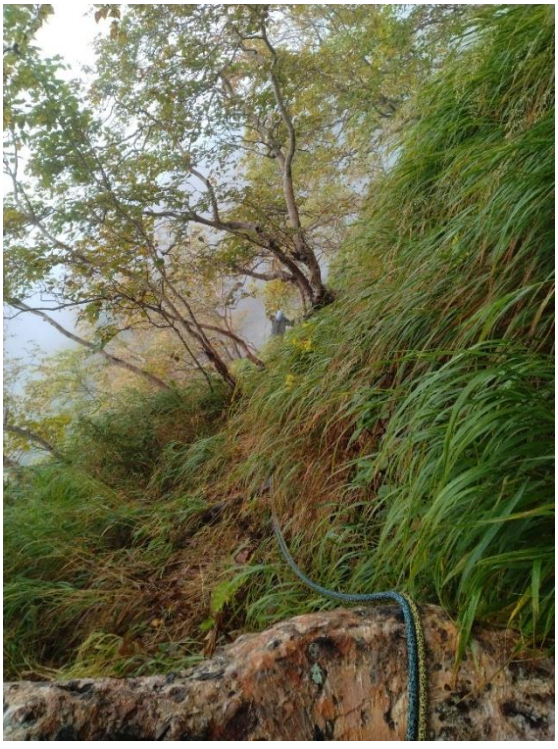
バットレスへのアプローチは C 沢 D 沢中間稜を詰めて行く。うっすらだが目印のペンキも塗ってあったので、GPS を利用しある程度現在地を確認しながら道を修正して進んだので問題なく取付けた。この日のピラミッドフェースだが、行動前日から未明までの雨で最悪のコンディション。スメアが効かない上にそれなりに渋い難易度。雨が降ったらとにかく滑るので絶対に行かない方が良いと感じた。支点も多いとは言えない状況で、ハーケンやカムは持ってきて正解。我々はキャメロット 0.5～2 は多用、ハーケンは 2 回使った。ピッチ毎の状況は以下の通り。

1P 浅い凹角 40m(Ⅲ＋)、河本リード
とにかく滑る岩へ恐る恐る乗りながら突破。沢靴を持ってくるべきだったか。岩が乾いていたとしてもⅢ＋は疑わしい。

2P 草付フェース前半 50m(Ⅲ～Ⅳ)、柴田
草付は前半が悪い。体感ではⅣ＋くらいに感じた。

3P 草付フェース後半 30m(Ⅲ～Ⅳ)、河本、柴田
草付後半は簡単なので確保なしでコンテ&スタカット。体感ではⅢくらいか。

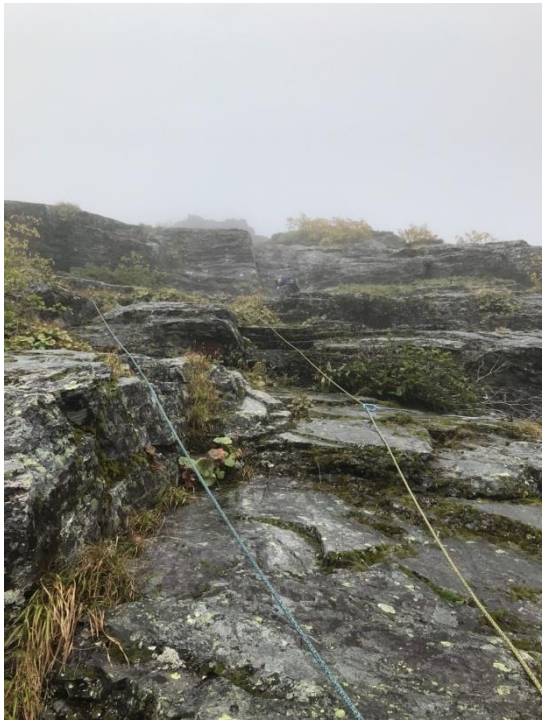
濡れていて 1P 目からとても難しい



3P 草付き後半は歩き

4P 脆いバンドを右上 15m(Ⅲ)、柴田
濡れていて悪いとは言えⅢは絶対に嘘。Ⅳ＋はあったのではないだろうか。

5P クラック、フェース(Ⅴ)25m、河本から柴田へチェンジ
下部核心、河本のピッチだがコーナークラックで落下。とにかく雨で濡れておりフリクションが全く効かず、非常に厳しい状況であった。そんな中、柴田が果敢にチャレンジ。カムを多数設置し何とか乗り越えてくれた。


下部核心、ここまで何とか伸ばすも

ここで落下

6P つるっとした凹角～クラック～フェースを左上 30m(Ⅳ＋)、柴田
前ピッチでの落下を踏まえ、もう引き返した方良いのではないかと思ったが、今回のリーダーは柴田。リーダーの判断を尊重し、登攀を継続する事となった。6P 目の壁は乾いていてもつるっとした凹角なのでしょう。この日はビチョビチョで、まるでオイルでも塗ってあるかの様な状況。下部核心と言われるピッチ(5P)と同等かそれ以上の難易度を感じた。

7P 逆層のフェース 40m(Ⅳ＋)、柴田
河本が担当するピッチであるが、岩のコンディションをみてどう考えても登れる気がしない旨を伝えると、落ちないので続けても良いかと柴田が回答。このピッチも柴田が担当した。本来 30m だが、時間短縮を試み上部核心のコーナークラック手前まで伸ばす。その為ロープの流れが悪くなり難儀していた。ここも濡れていて非常に悪い。

8P フェースを左上～コーナークラック 20m(Ⅴ)、柴田
このピッチも本当に悪い上に支点があまりない。私に至ってはごぼうを使う始末。柴田はルートに確証が得られず、細かく切った。

9P フェースを右上 20m(Ⅱ)、柴田
ルートミスか。Ⅱは絶対にあり得ない。少く見積もってⅣ＋くらいか。それでもピラミッドフェースの頭には到達した。

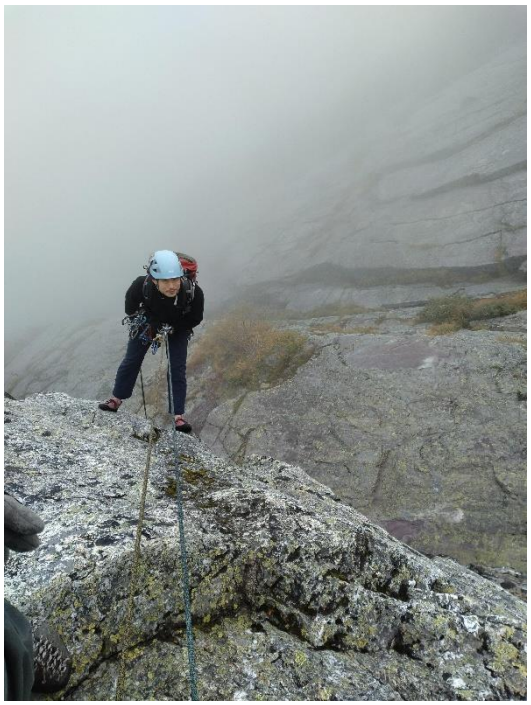
10P 緩傾斜のクラック 40m(Ⅲ)、河本
四尾根に合流し岩も多少乾き始める。柴田連投で疲労を訴えてきたので、ここからまたつるべでやる事とした。

11P フェース～リッジ 30m(Ⅲ)、柴田
この辺りはトポ通り。昨年も四尾根はやっているので勝利を確信し始める。

12P 三角形の垂壁～リッジ 30m(Ⅳ＋)、河本
出だしが悪いが支点は豊富なので問題なし。時間も押していたので、A0 連発で短時間で通過。

マッチ箱に着き懸垂

9P 目のコース取りが謎

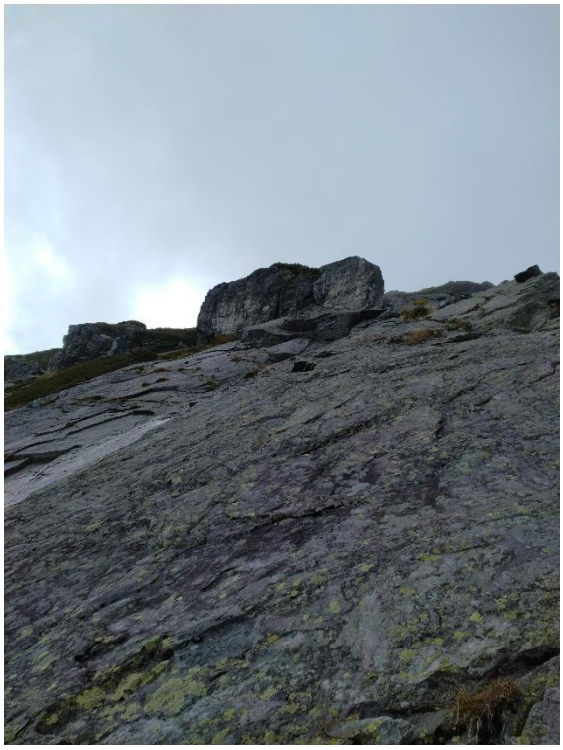

お約束の懸垂撮影

13P 右コーナー～カンテ上一のクラック～カンテまたは左のルンゼ 50m(Ⅲ＋～Ⅳ)、柴田
本来 30m30m でピッチを切る様だが、50m ロープで強引に繋げる。

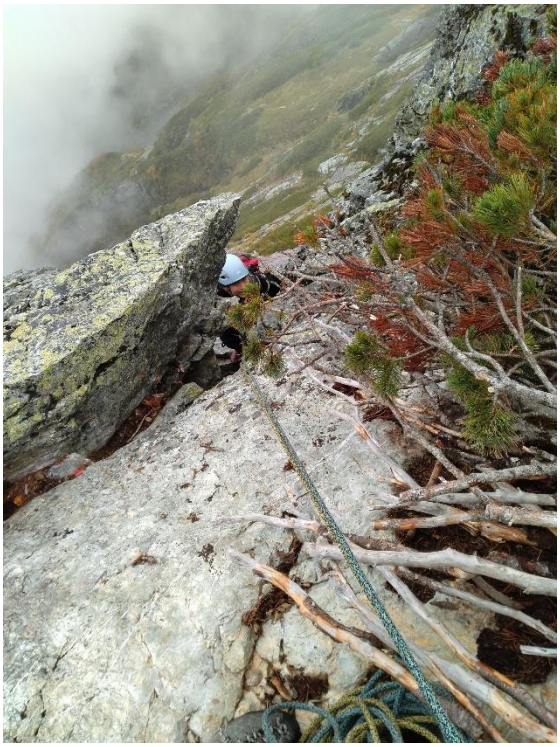
城塞ハングへトラバース

14P 城塞ハング 40m(Ⅳ＋)、河本
「河本さん！城塞ハングをリードしなければピラミッドフェースは疎か、四尾根をやった事にはしませんよ！」とリーダーから激が飛ぶ。厳しい男である。師匠の顔が見てみたいものだ。冗談はさておき最終ピッチだか、トラバースを終えた支点にはハンガーボルトが新たに打ってあった。登り始め 2 つ目の支点(残置カム)が遠いので、途中ハーケンを打ち足す。チムニー内は左右に残置ハーケンが打

ってあるが、左側はアングル、右手側はグラついておりとても信用できないのでカム設置した。チムニー内はやはりビチョビチョで、足の置き場に迷いが生じたがもう最後なので気張った。とにかくグラグラなハーケン、アングルをがっつり掴み強引にクラックに体を突っ込み核心を抜ける。



城塞ハング



これで終わりだ！

全 14P(懸垂トラバースを入れると 16P)を終え疲労困憊。健闘を称えつつ北岳山頂を目指す。終了点から頂上は踏み後を辿れば迷う事はない。17:50 山頂に立つ。山頂から草滑り経由の下山で、20:35 に小屋へ到着した。

3 日目

5:30 起床 7:00 出発。広河原に早く着いても始発のバスが 10:00 なのでゆっくり降る。タバコを切らしていた柴田にとってもどかしい時間が続く。それでも乗合いタクシーがバスの出発時間より早く出てくれたのでラッキーだった。下山後、私は継続して尾白川をやる予定であったので、大西会員と甲斐市内のお食事処「ぼんち」さんで合流。皆でデカ盛りメニューで腹を満たした後、韮崎温泉旭の湯で疲れを癒した。

ぼんちさんのデカ盛りチキンカツカレー

感想

４級ルート完登を今年の目標に掲げていた我々にとって、ピラミッドフェースは是が非でも落としたいルートであった。最悪のコースコンディションの中、柴田の神がかり的な活躍のお陰で何とかやり抜く事ができたのだか、AO 連発、私に至ってゴボウまでしたので、やはりコンディションの良い時にもう一度トライしようと誓い合った。どんどん逞しくなっていく相棒に、パートナーとしての自分に限界を感じつつ、もう少しだけ彼と一緒に本気のクライミングを楽しみたいと思う 46 歳のおじさんであった。何にしても、今回の山行は私にとって一生忘れる事が無いと思う位の達成感を得る事ができた。相棒よ、本当に大した漢である。登らせてくれてありがとう。

勝利を確信しドヤ顔になる河本